

THE HISTORY OF UCHIYAMA SEIKO co.ltd



お陰様をもちまして、内山精工は昭和6年の創業から70周年の大きな節目を迎えることができました。これもひとえに、多くのお客様や社員とご家族、地域の皆様方の温かいご支援、ご助力に支えられた賜物であると、心より感謝し、厚く御礼申し上げます。

70年の星霜を振り返ると、太平洋戦争、石油ショック、円高不況、平成に入ってから長期不況など、その道のりは必ずしも平坦ではありませんでした。しかし、いかなる時も、社員一人ひとりが「苦あれば楽あり、楽あれば苦あり」のスピリットを胸に刻み、苦難に耐え、一丸となって踏ん張り抜いてくれたからこそ、今日の内山精工があるのだと思います。

現在、わが国にはIT革命の波が押し寄せ、産業構造そのものが大きく変化しようとしています。インターネットの急速な普及で、世界を舞台に商品が流通するようになりました。機械部品加工の分野も、国境を超えた企業間競争にさらされる日が、すぐそこまで来ていると言っているでしょう。

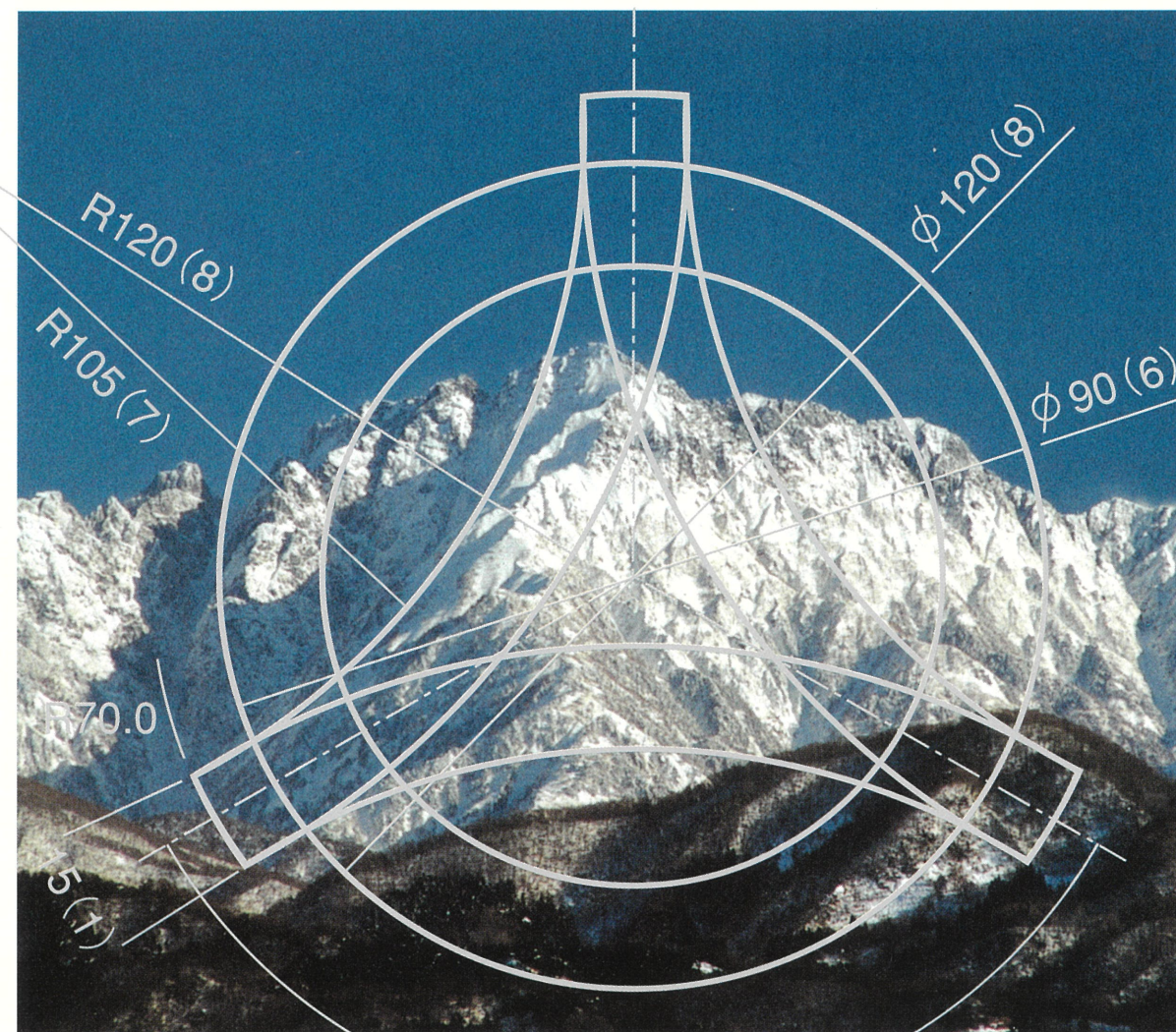
内山精工は、この急激な変革を恐れることなく、これからも最先端の技術に挑み、高品質を追求していきます。そして、創業から今日まで培ってきた技術力とノウハウを土台に、さらなる研鑽を積み重ね、また、地球環境への貢献を目指して環境保全の国際規格であるISO14001の取得にも取り組んでまいります。

内山精工は、モットーであるチャレンジ精神を常に忘れず、21世紀を新たな飛躍の世紀として、一步一步、着実に歩んでまいりたいと思います。



代表取締役
内山康弘

変革を恐れることなく
あくなきチャレンジ精神で、
未来へ



人の心感謝

語 録

創業者
故内山精一

創業者、内山精一。昭和6年、単身で内山精工の前身となる内山鉄工所を興す。以来、生来備わった創造力と知恵をもって、近代設備の導入と技術力の強化を積極的に進め、農機具の修理から始まった小さな工場を、機械部品加工会社として富山県での地位を確かなものとするまでに育て上げた。生涯現役を貫き、その歩みを止めようとしなかった起業家は、平成10年3月26日、享年91歳でこの世を去る。が、折に触れて、自らの人生観を社員に語って聞かせたという内山の言葉は、内山精工の経営哲学として、今も生きている。



一、常に笑顔で人に接せよ

微笑みは心の言葉、微笑みに勝る化粧はなし

二、物を粗末にする勿れ

物を粗末にすることは自分自身を粗末にすることだ。すべての物には魂が宿っている。感謝の心を忘れるな。必ず思いが通じ合うもの。

三、おら我おら私の、 我を捨てよ

人は常に謙虚で感謝の心を忘れるな。そうすれば素直になれるし、自然に人の和が保たれる。

四、自然の理に反する勿れ

病むは血が濁るから。血が濁るのは“自然の理”すなわち、自然の法則に反する行いをしているからだ。身も心も常に健康であるためには、先祖や親を敬うべし。

五、互いに言葉の交流を 大切にせよ

積極的に話しかけ、また相手の話に耳を傾け、相手の立場を理解し心を通わすことにより、人の和ができる。

六、損して得せよ。 儲けすぎるな

お客様に喜んでもらうことで自分もうれしくなれば、徳を積んだことになる。ストレスをためずに健康で働くことができれば、きっと良いことが巡ってくるもの。何事も、“過ぎる”は災いの元。

七、苦あれば楽あり。 楽あれば苦あり

悪い時があれば必ず良い時がある。これは“自然の理”すなわち、変化の法則なのだ。人のせいでも何のせいでもない。その時々をどう精いっぱい努力するかである。常に先を見て、今何をすべきかをよく考え改善していくこと。その積み重ねが大事なのだ。

八、人生に夢を持て

どんな小さなことでも、こうしたい、ああしたい、こうなりたい、ああなりたいと熱い思いを持ち続けること。そうすればおのずと目標が明確になり、実現に向けて行動が伴うもの。

九、企業は人なり

どんなに世の中が進歩し設備が近代化しても、それを動かし管理するのはやはり人なのである。働く人の潜在能力を十分に発揮できる環境づくりこそ、人材を“人財”にすることになる。人を大切にせよ。人を失うことは財産を失うことになる。

十、会社の歴史は信用なり

長い歴史の中に、好・不況の波は幾度となくあったけれど、皆が一丸となって乗り切って今日に至っていることは、会社と社員の皆さんとの絆の強さの表れである。これは金融機関や地域社会からも信頼され、信用につながるものだ。



昭和6年 内山鉄工所として創業。
昭和23年 上市町新町1番地に移転。
もちつき機、冷凍機などの設計製作を開始。

飛躍の瞬間——①

昭和6年

上市町新町21番地で創業

内山鉄工所創業、農機具の修理からスタートを切る



精一の妻光子が娘の悦子に、軸受用レースの旋削を手ほどき [昭和25年]

創業まもないころの内山鉄工所で、旋盤を扱う内山精一

金融恐慌の余じんがくすぶり、失業者の続出と農村の窮乏、労働運動の激化など、日本全体が大きな社会不安に包まれていた昭和6年4月、富山県上市町新町に、内山精工の母体となる内山鉄工所が産声を上げた。借家を改造しただけの小さな鉄工所の主は、起業の情熱だけは人一倍持った内山精一。従業員はなく、わずかの設備で文字通り裸一貫からのスタートであった。

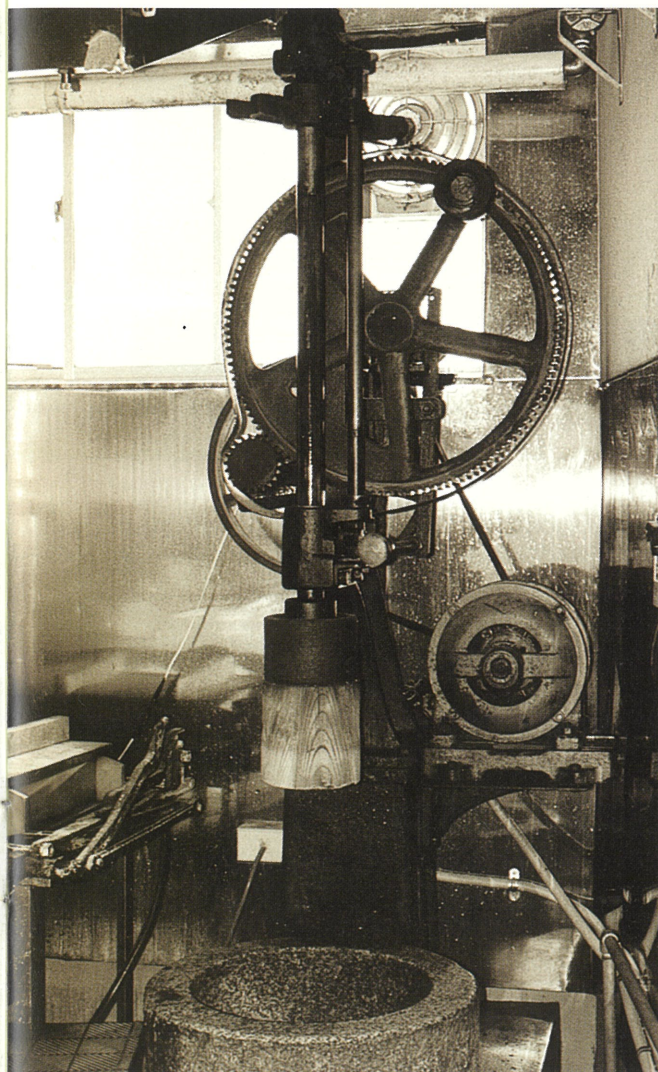
内山は明治39年8月、富山市で5人兄弟の真ん中に生まれた。家は鍛冶屋を営み、父親は明けても暮れても農耕馬の蹄鉄を打っていた。一家の暮らし向きは決して楽ではなく、内山は15歳になると、家計を助けるために、知人を頼って岐阜県の大垣鉄工所に丁稚奉公に出た。

子供のころから自立心のおう盛だった内山は、いつの日か、自分の手で会社を旗揚げすることを夢見て、がむしやりに働いた。そして、働きながら製作技術と知識を盗み取った。内山少年の素直で明るい性格は、先輩の職人にも気に入られ、かわいがられた。よく、お使いでたばこを買いに行かされ、釣り銭がお駄賃として当たった。内山少年は、それをいつか会社を興す時のささやかな資金にしようと、こつこつとため続けた。

親元を離れて奉公に出てから10年の歳

月が流れ、たくましさを増した内山は、25歳の春に、大垣鉄工所を辞めて郷里に戻り、念願の鉄工所を創業した。仕事は農機具の修理から始まった。近所の農家から農機具修理の依頼を受けると、夜を徹して仕事に励んだ。確かな技術が評判を呼び、修理や製作の依頼が持ち込まれるようになるまでに、そう日はかからなかった。

戦後の混乱を経て昭和23年には、内山鉄工所は8人の従業員を抱えるまでに成長していた。工場も手狭になったため、内山は上市町内に新たに旧家を買取り一部を工場にした。移転後は、いろいろの農機具に加えて、もちつき機や冷凍機などの設計と製作も手がけ、内山精工へとつながる基礎を固めていった。



内山鉄工所の開発製品のもちつき機。現在も使われている

昭和6年 富山の動き

- 5月 富山市と伏木町で第1回メーデー開催
- 6月 神通川廃川地の埋め立て・富岩運河の開削工事の起工式が挙行
- 8月 前田普羅らが高浜虚子一門を迎え、富山市で裏日本俳句大会を開催
- 11月 平村出身の鉢淵清香らが水稻新品種「農林一号」を開発

昭和6年 日本と世界の動き

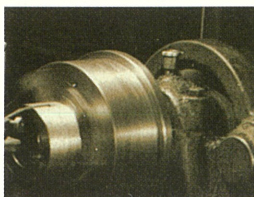
- 4月 重要産業統制法公布
- 9月 満州事変
- 12月 金輸出が再禁止



創業まもなく入社した山崎(左)と新井



後列左が内山精一。その隣は新井。前列左はしは設計技術担当の金岡、右はしは山崎 [昭和26年]



- 昭和26年** 株式会社不二越の協力工場として軸受用レースの旋削を開始。
- 昭和31年** 株式会社不二越の協力指定工場となる。
- 昭和34年** 上市町若杉39番地に移転。新工場で本格的に軸受用レースの旋削にあたる。
- 昭和45年** 自動定寸単能機を2台設置、合理化を図る。

飛躍の瞬間——②

昭和26年

株式会社不二越の協力工場として

安定した収入を得るために、 下請け会社へ転身

前年の朝鮮戦争による特需ブームで、日本経済は大きく転回した。特に、鉄道車両や自動車、電動機などの精密工具の需要が急増し、急速に明るい市場が開けてきた。

中でも、屈指の精密機械工業メーカーとして全国にその名をとどろかせていた不二越は、朝鮮戦争勃発後、工具と軸受の需要急増を受けて量産体制を整備し、北陸3県と新潟に合わせて90社の協力工場を抱えるまでに成長した。不二越の下請け企業はいずれも、次々と舞い込む注文にうれしい悲鳴を上げ、一段と活気を呈していた。

一方、内山鉄工所は相変わらず、農機具やもちつき機などの一般機械器具の製造を主力としていた。注文が滞ることはなかったが、売り上げの安定にはほど遠く、経営は決して楽ではなかった。

「時代が求めるものづくりに徹することで、安定した経営が約束されるならば、下請け会社への転向は決して敗北ではない」。会社の将来ビジョンを考えた内山は、昭和26年、不二越の協力工場として軸受用レースの旋削を始めることを決めた。

昭和27年になると、日本経済の復興は軌道に乗り、機械工業の分野は生産設備の近代化と合理化に力が注がれるようになった。不二越でも自動二輪車、自動三

輪車、搬送コンベア用品などの軸受の需要が増え、それと同時に内山鉄工所も順調に業績を伸ばしていった。

昭和31年、不二越の協力指定工場となったのを足がかりに、3年後には工場を上市町若杉に移転し、軸受用レースの旋削を本格化していった。



材料積み下ろしのためフォークリフトを導入。運転手は内山康弘。若杉工場にて [昭和43年]



2年遅れの創業30周年記念撮影。社員17人と内山家の人々 [昭和38年4月13日]



創業40周年記念の研修旅行で九州へ [昭和46年]

昭和26年 富山の動き

- 4月 不二越病院、県に移管され県立中央病院と改称。高岡産業博覧会を開催
- 5月 北陸配電解散し、北陸電力株式会社を設立
- 10月 日米親善野球富山大会、県営富山球場で開催

昭和26年 日本と世界の動き

- 4月 マッカーサー解任される
- 5月 電力再編成、9電力会社発足
- 6月 ユネスコとILOが日本の加盟を承認
- 9月 サンフランシスコ講和会議で対日平和条約と日米安全保障条約が調印



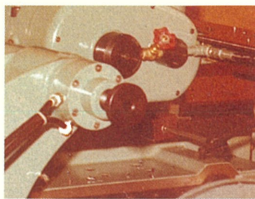
移転してまもないころの若杉工場 [昭和34年]
写真中央は、窪田品質保証部長（当時18歳）



建設途中の若杉工場事務所



軸受用レースの旋削作業に精を出す窪田。新町工場にて [昭和31年]



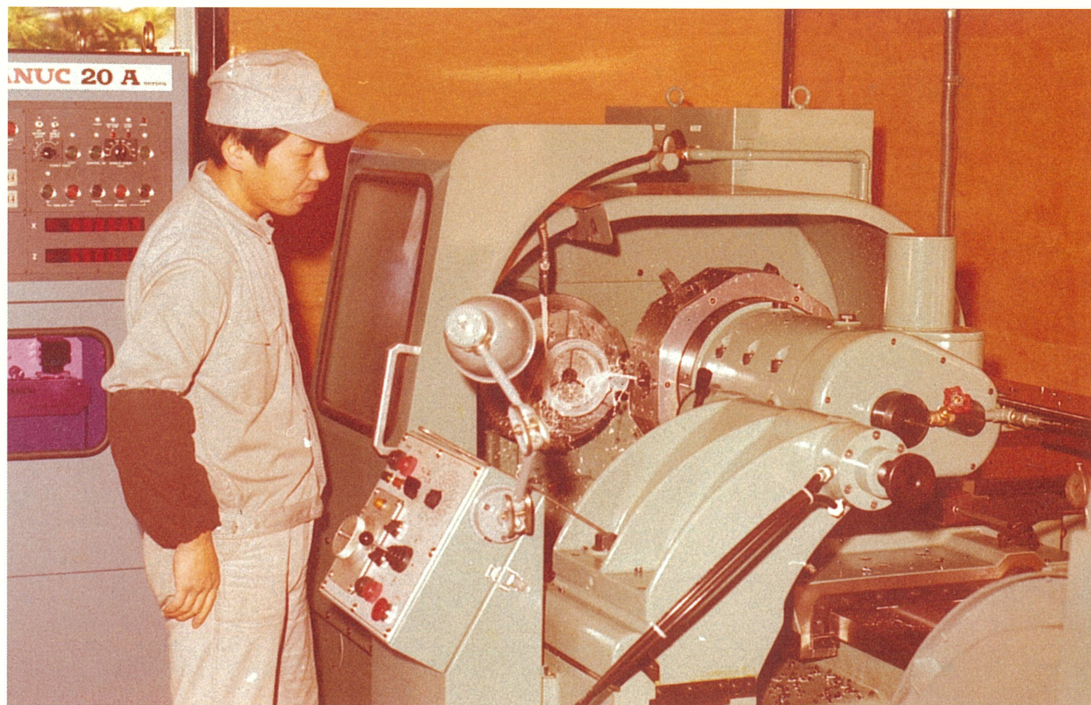
昭和50年 NC旋盤1号機を設置。
昭和52年 株式会社不二越の油圧機器部品の製造開始。
昭和53年 田中精密工業株式会社の協力工場となり、自動車部品の加工開始。

飛躍の瞬間——③

昭和50年

NC旋盤1号機を設置

大不況の逆風の中、 社運をかけてNC旋盤を導入



導入したばかりのNC旋盤と
柴田製造部長（当時30歳）
[昭和50年]

昭和48年秋の第1次石油ショックは、日本経済に壊滅的な打撃を与えた。富山県内でも、この年、企業の倒産件数は過去最悪となった。年が明けると、不況は一段と深刻さを増し、日本は初めてのマイナス成長を記録。苦境にあえぐ企業の救済策や生活物資の確保を図るため、富山県は県民生活安定緊急対策本部を設けた。

昭和50年に入っても、日本経済に明るさは戻ってこなかった。だが、内山鉄工所はこの逆風の中であえて積極経営に打って出た。

コンピュータ制御により刃先を管理し、これまでの手動による旋削に比べ、作業効率が格段にアップするNC旋盤を導入したのである。一度数値を設定するだけで、寸法や形状のそろった部品を大量に生産できる最新設備の導入は、富山県内の中小企業では初めてだった。

石油ショックを機に、産業構造の高度化が進み、機械工業は品質・価格ともに競争力を求められ、企業は徹底したコスト圧縮を強いられる中で、「より良いものを、より安く、より早く」製造するしか生き残りの道がないとの読みからであった。

しかし、それは途方もない資金と英断のいることだった。NC旋盤1台が1000万から2000万円もし、従来機の10倍以上と

いう高根の花のような機械であり、資本力の小さな中小企業への導入は容易なことではなかった。また、導入しても確実に受注が増えるという保証はなく、失敗すれば社の存続さえ左右しかねない危険性も秘めていたからである。

内山が「社運をかけた」と今も回顧するNC旋盤「NCTL-500B」の価格は、1260万円。自社資金だけではまかなえず、近代設備資金の制度融資を受けての導入だった。初めて取り扱う旋盤に戸惑いも連続し、社内技術陣はプログラミングや段取りと生産に不眠不休で当たった。

不況に臆することなく決断したNC旋盤の導入。それは、受注を大きく伸ばすとともに、社員のやる気と団結心も生み出し、「難局に一致結束してぶつかる」という“内山スピリット”の醸成につながったのである。



第5回上市町駅伝マラソン大会に出場
[昭和52年10月30日]

昭和50年 富山の動き

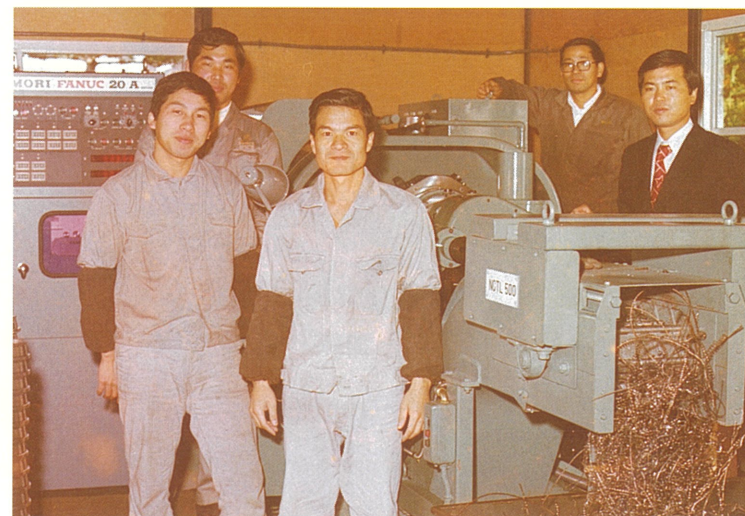
- 3月 富山地方鉄道笹津線廃止
- 10月 国立富山医科大学開学
- 10月 北陸自動車道の小杉-富山間開通

昭和50年 日本と世界の動き

- 2月 英保守党のサッチャーが初の女性党首に就任
- 3月 英王室がチャップリンにナイトの称号を授与、サー・チャールズ・チャップリンとなる
- 4月 南ベトナム・サイゴン政府が無条件降伏し、30年に及ぶ内戦終了
- 5月 英国のエリザベス女王夫妻初来日。日本女子登山隊、女性初のエベレスト登頂に成功
- 6月 第3次中東戦争以来閉鎖されていたスエズ運河が8年ぶりに再開。国際婦人年世界会議がメキシコで開幕
- 7月 沢松和子、アン・キヨムラがウィンブルドンの女子ダブルスで優勝。米・ソ連宇宙船「アポロ」と「ソユーズ」が初めてドッキングに成功。復帰3年目の沖縄で国際海洋博覧会開幕。世界36カ国が参加
- 11月 仏で第1回サミット開催

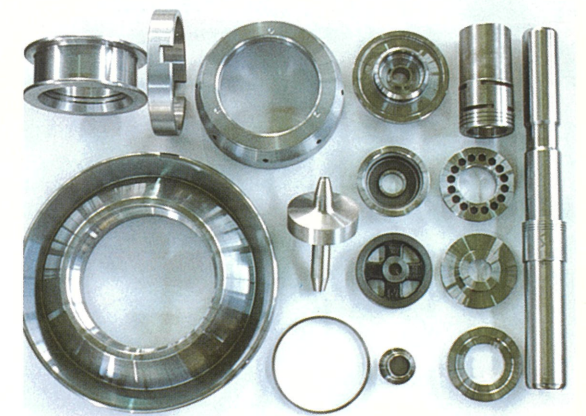


マラソン大会後の慰労会で記念撮影。
中列左から窪田、内山（康弘）、筒井、柴田。前列左はしが内山（精一）
[昭和52年10月30日]



森精機のサービスエンジニアから、NC旋盤の操作方法を教わる
[昭和50年]

NC旋盤で加工した軸受部品、
自動車部品、油圧機器部品





昭和55年 株式会社内山精工を設立。

昭和56年 第2工場完成。

昭和57年 資本金1,000万円に増資。

昭和59年 社員更衣室、会議室を増設。工場敷地内を舗装、融雪装置も設置。

昭和61年 荷受け降ろし場を増設。

飛躍の瞬間——④

昭和55年

株式会社内山精工を設立

増産体制を整え、
株式会社内山精工が始動



第2工場（中央奥）
完成後の内山精工
全景 [昭和56年]

急激な円高の影響で全国的に不況ムードが漂っていた昭和53年、内山鉄工所は苦境に立たされた。まず、NC旋盤導入後の主力製品が、不二越の直営工場で内製化されたため、総受注量が一気に3割も激減したのである。

これに追い討ちをかけたのが、苦境を脱しようと新たに開拓した受注先の倒産だった。ようやく石川県内の機械部品メーカーと契約を取り付け、徐々に売り上げが伸びようとしていた矢先のことであり、内山鉄工所は400万円の不渡りの被害を受けて、経営危機に追い込まれたのである。

当時、専務だった内山康弘は必死の思いで、田中精密工業に社長の田中儀一郎氏を訪ねた。田中氏の元を訪ねたのは、内山鉄工所が先駆けてNC旋盤を導入した際に、前向きな経営戦略として高い評価を与えてくれたという経緯があったのが一点。もう一つは、不況のさなかにあっても、着実に業績を伸ばし、成長を続ける同社の経営理念を何としても学び取りたかったからだ。

内山の熱意は実を結んだ。田中精密工業の協力工場として、オートバイ部品の加工を継続的に受注することになった。また、内山はこの時、田中氏から「ものをつくる時には必ず、Q（品質）とC（価格）とD（納期）の三つに目を向けよ。どれ

か一つが欠けても、顧客を最大限に満足させることはできない」の教えを直にたたき込まれた。この田中氏の言葉は、内山精工の経営方針として根を下ろし、今に受け継がれている。

契約後、内山鉄工所では、品質と生産性の向上に対応するため、設備の改善を繰り返した。オートバイ部品の生産ラインを3ラインに増やし、受注能力は4万個にまでアップした。

さらに、新たな設備投資の資金調達を可能にするため、内山鉄工所は昭和55年、組織を株式会社内山精工に改めた。経営再建は順調に推移し、翌年に第2工場が完成。昭和57年には資本金を1000万円に増資し、ホイールベアリングの製造も開始するなど、倒産のピンチをバネにして、内山精工の強固なものづくり基盤と探求心に富む風土が整えられていった。



第2工場建設の地鎮祭に
臨む内山精一 [昭和55年]



木造の旧工場に隣接して
建設された第2工場
[昭和56年]

昭和55年 富山の動き

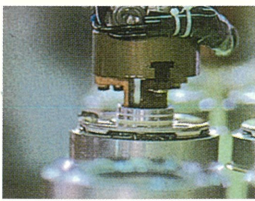
- 2月 富山・長野女性連続誘拐・殺害事件が発生
- 3月 富山地方鉄道射水線廃止
- 4月 洗足学園魚津短期大学開学
- 11月 中沖豊、知事に当選
- 12月 北陸自動車道の富山-滑川間が開通

昭和55年 日本と世界の動き

- 1月 KDD疑惑発覚
- 2月 早大入試問題漏洩発覚
- 4月 東京で会社運転手・大貫久さんが1億円を拾う
- 5月 韓国全土に戒厳令、市民によるデモ「光州事件」発生。大平首相、急性心不全のため入院先の病院で死去
- 7月 鈴木内閣発足。モスクワオリンピック開催、日、米、西独、中など不参加。
- 9月 イラン・イラク戦争勃発
- 11月 米、ボイジャーが土星に大接近。米、レーガンが大統領に就任
- 12月 ジョン・レノン、熱狂的なファンに殺される



創業50周年を記念して
4泊5日の北海道旅行へ
[昭和56年]



- 平成元年 上市町広野3132番地に本社工場を移転新築。
 平成2年 工場を増設。
 平成3年 ホイールベアリング製造ライン増設。
 平成5年 STAR運動を展開し改善活動を推進。
 平成6年 パルサーリング加工開始。(合資会社日下歯車製作所向け)
 2スピンドルCNC旋盤増設。(超肉薄レース品の加工レイアウト変更)
 平成7年 不二越TPM活動開始。
 平成9年 工場増設。(762.6m²)

飛躍の瞬間——⑤

平成元年

上市町広野に本社工場を移転新築

緑豊かな地で
新たな一步を踏み出す

昭和59年、北陸で初めてローダー付2軸NC旋盤を導入し、主力製品だったホイールベアリングの増産体制を整えた内山精工は、さらなる受注の増大に対処するため、上市町広野に工場を移転することにした。内山精工が新天地で一歩を踏み出そうとしたその年、時代は折から昭和から平成へと移った。

新しい工場は、緑豊かな地に建設された。建物面積は1320平方メートル、敷地面積は7920平方メートル。これまでの3倍もの広々とした敷地周辺にはスギ木立が包み込むようにして連なり、社員が伸び伸びと働くことのできる環境が整えられた。

内山が、「若さと成長と調和の企業」を目標に掲げたのは、このころである。それは、工場移転以来、毎日のように周囲の自然を眺めていた内山の胸に浮かんた、ある思いがきっかけだった。目の前のスギの大木も、かつてはか弱い小さな芽に過ぎなかったはずだ。その芽がやがて幼木になり、厳しい自然にさらされながらも、環境に順応して成木になっていく。内山精工も、このスギと同様、どんな不況や状況の変化にも揺らぐことなく、成長し続ける企業でありたい。そんな願いを込めての新たな目標の宣言であった。

そのために、「よく観察し、考え、すぐ

に行動し、互いに元気づけよう」のスローガンを基本とする「STAR運動」を展開し、社員一人ひとりに中断ない自己改革を促すなど、ソフト面の充実にも力を入れた。

もちろんハード面の改善も積極的に推進した。移転当初、1ラインだったホイールベアリングの製造ラインを、平成3年には5ラインにまで増設したのもその一つで、そこには「昨日より今日、今日より明日」と、わずかずつでもその幹をたくましくし、確実に年輪を刻んでいく樹木を理想とする内山精工の姿が映し出されていた。



新社屋建設予定地に社員が集合



平成元年に完成した現在の社屋



新社屋竣工記念祝賀会の会場で、社員一同記念撮影 [平成元年]



竣工式で玉ぐしを捧げる田中精密工業の田中儀一郎社長 (左)



祝賀会場であいさつする内山精一



お祝いの言葉を述べる田中社長



竣工記念祝賀会に駆けつけた清水美晴上市町長 (真ん中)



祝賀会の出席者と杯をかわす精一 (真ん中)。左は不二越の上勢晴夫軸受製造所次長



不二越から品質優良企業として表彰を受ける [平成2年]

不二越TPM賞第2類を受賞。富山第一ホテルにて授賞式 [平成9年11月]



不二越TPM賞第2類受賞記念の盾

平成元年 富山の動き

- 4月 高岡法科大学開学。高岡市制100周年記念式典を挙げる
 5月 県と市の各自治体、毎月第2・第4土曜日の閉庁を実施
 6月 富山市制100周年記念式典を挙げる
 7月 日本の都市公園百選に県内から高岡古城公園、県民公園太閤山ランドが選定
 9月 国体で八尾高校女子漕艇部、史上初の8連覇を達成

平成元年 日本と世界の動き

- 1月 昭和天皇崩御、新元号は平成に決定。アメリカでブッシュ政権誕生
 2月 吉野ヶ里遺跡が最大級環濠集落と判明
 4月 消費税導入
 6月 宇野内閣が成立。歌手の美空ひばり逝去。中国で天安門事件発生。イランでホメイニ師逝去。
 7月 参院選で与野党逆転
 8月 連続幼女誘拐殺人事件犯、宮崎勤逮捕。海部内閣成立
 9月 日米構造協議スタート
 11月 日本初、生体肝移植成功。ベルリンの壁崩壊
 12月 米ソ首脳マルタ会談、冷戦状態終了



平成10年 創業社長逝去。(3.26 享年91歳)
平成11年 工場内の設備レイアウト大変更。

飛躍の瞬間——⑥

平成10年

創業者内山精一が逝去

石碑に込めた91年の人生哲学



自宅で石碑に刻む文字の練習に励む内山精一

平成10年3月、内山精工は深い悲しみに包まれた。創業から66年もの間、経営の第一線にあった内山精一が91歳で逝去したのである。仕事を誰よりも愛し、亡くなる2カ月前まで、工場に足を運んで元気な声を響かせていた精一の姿が消えた寂しさは、社員の胸にぽっかりと大きな穴を開けたかのようであった。

専務として後を託されていた康弘も同様である。しかし、そんな感傷に浸る間もなく、康弘は4月、2代目社長としての重責を担い、受けたバトンを手で全力で走り出していた。翌年には、作業効率の向上をめざして工場の設備レイアウトを変更するなど、世紀の転換を予感させる新しい空気がみなぎっていった。

しかし、時代が変わっても、決して変わらないもの。それは、精一が残っていた経営理念だった。「企業とは、仕事を通して働く人みんなが幸せになるために努力する場だ」「明るい心と感謝の気持ち、それに人の和がないと、自分自身の幸せも会社の幸せもない」。生前、精一がことあるごとに熱っぽく語ったこれらの言葉は、幾多の苦難を乗り越え、なめた辛酸の果てに体得した精一の人生哲学と言ってもよかった。

精一は亡くなる7年前の平成3年、その思いを長く苦楽をともにしてきた社員、そして、次代の内山精工を担うであろう



石碑の除幕式であいさつする精一 [平成3年8月]

まだ見ぬ社員にも伝えたいと、正面玄関前に石碑を建てた。書家に揮毫を依頼せず、半年間、練習を重ねて自ら筆を取り、無骨ながらも精魂を込めて書きしるした。

「感謝・心・人の和」。精一が己の人生を凝縮したかのようにしたためた3つの言葉は、今も内山精工と後輩たちの行く手を温かく見守っている。



除幕式で社員から心のこもった花束を受け取る精一



石碑の前で家族と社員一同記念撮影



研修旅行のため、社員全員でハワイへ [平成7年]



野球親善試合を開催し、社員同士が親睦を深める [平成11年11月13日]

平成10年 富山の動き

- 3月 高岡で腸管出血性大腸菌O-26感染者が100人余り
- 5月 細入村「ポートピア」建設をめぐり住民投票で反対多数
- 6月 富山市と周辺の小中学校で給食による集団食中毒、患者数1000人余り。富山-大連便就航
- 7月 住博司衆院議員が死去

平成10年 日本と世界の動き

- 2月 長野冬季オリンピック開催、日本選手が冬季最多のメダル10個を獲得
- 3月 山一証券101年の歴史に幕
- 4月 明石海峡大橋開通
- 5月 インド、パキスタンが核実験を強行。インドネシア暴動拡大、スハルト大統領辞任。
- 6月 W杯フランス大会開幕、初出場の日本は決勝トーナメント進出できず
- 7月 ロス疑惑三浦被告に逆転無罪。和歌山県で毒入りカレー事件、4人死亡



社葬の祭壇には、菊の花で「感謝・心・人の和」の文字がかたどられた



社葬には多くの社員が参列し、生前の精一をしのんだ

設備と製品の変遷

昭和23年 (1948年) もちつき機、冷凍機的设计製作を開始

昭和26年 (1951年) 段車式ベルト掛け駆動旋盤で、軸受用レースの旋削を本格的に開始 (写真7)

昭和40年 (1965年) 直結旋盤

昭和45年 (1970年) レース旋削用の自動定寸単能機、油圧単能盤を導入

昭和50年 (1975年) NCTL-500Bを導入。手作業の旋削からコンピュータ制御によるオートメーション化が図られる。軸受用レース、油圧機器部品など部品の種類が増える。

昭和57年 (1982年) TMC-2を導入。四輪部品加工を開始 (写真6)

昭和58年 (1983年) 穴明け、タップ、部品加工用のマシニングセンターを導入。ホイールベアリングの加工開始 (写真5)

昭和59年 (1984年) 北陸初のフィンガーローダー付2スピンドルCNC旋盤を導入。ホイールベアリングの量産に対応 (写真4)

昭和63年 (1988年) ハブベアリングのライン化 (写真3)

平成3年 (1991年) ガントリーローダー付2スピンドルCNC旋盤 (写真2)

平成12年 (2000年) ガントリーローダー付2スピンドルCNC複合旋盤 (写真1)



昭和47年 (1972年)
油圧式自動定寸単能盤

昭和26年 (1951年)
段車式ベルト掛け駆動旋盤 (写真7)



昭和57年 (1982年)
TMC-2 (写真6)



昭和57年 (1982年) NC



昭和58年 (1983年) マシニングセンター (写真5)



NC旋盤による加工部品



昭和63年 (1988年)
ハブベアリングのライン化 (写真3)



昭和59年 (1984年)
荷受け降ろし場



平成3年 (1991年)
ガントリーローダー付2スピンドルCNC旋盤 (写真2)



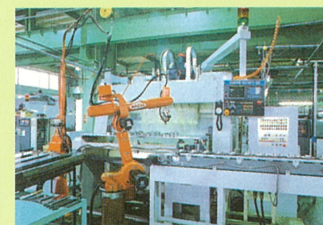
昭和63年 (1988年)
アウタージョイントライン



昭和59年 (1984年)
社員食堂



平成12年 (2000年)
ガントリーローダー付2スピンドルCNC複合旋盤 (写真1)

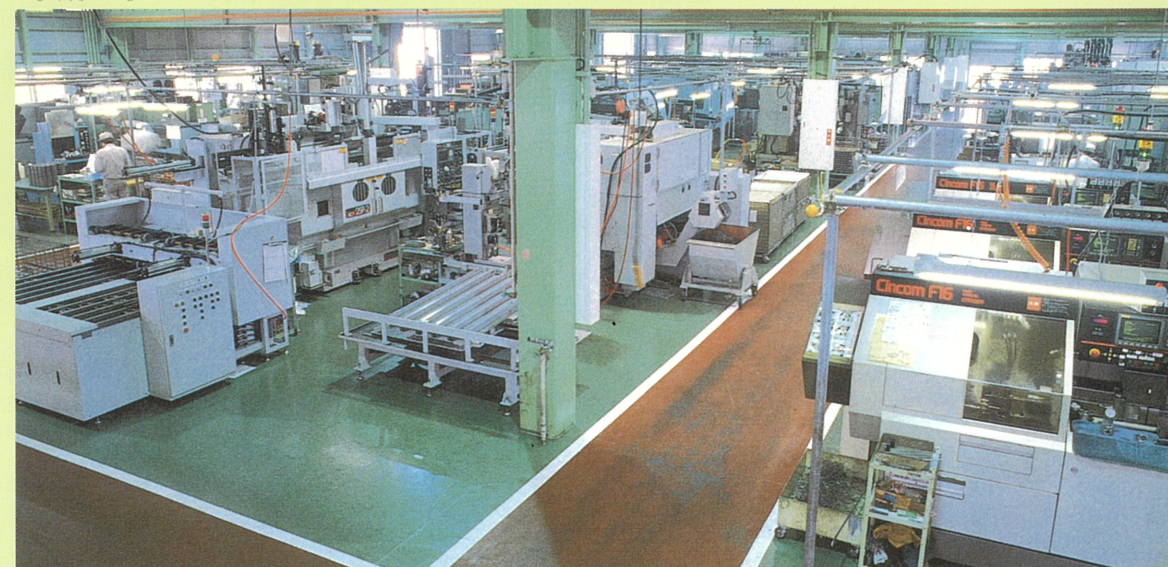


平成3年 (1991年)
4軸立形マシニングセンター
ロボット付



平成4年 (1992年)
社屋、工場空撮

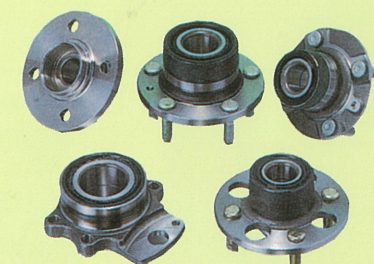
平成4年 (1992年) 工場ライン



ギアベアリングユニット・クラッチリリース・ダブルコーンシンクロ
ミッション部品群。特にF1カー用品に開発された油圧クラッチリリースは、加工難度の高いベアリングの複合化を実現



超薄型ラジアルベアリング
宇宙ロケットやロボットに使用



自動車ホイールベアリングユニット
重要部品として指定され、国内外のスポーツカーに広く採用



商号を株式会社に変更した昭和55年以前に使われていたロゴマーク

■経営理念

会社は仕事を通し、みんなが幸せになるため努力する場所である

■経営基本方針

人の和を基本に明るく働きがいのある職場作りに努め、お客様に喜ばれる価値ある製品の提供を通して、社会に貢献し会社の信用を高め、持続的な繁栄と社員の幸福をはかる

■2001年の経営方針

- 全社員が一丸となって不況に強い企業にする
1. TPM活動を通して企業体質の改善と強化をはかる
 2. 品質向上に徹しお客様に喜ばれる製品を作る
 3. ムダ取りを追求し原価低減をする
 4. ライン化を推進しフレキシブルな生産体制を確立する
 5. 安全で働きやすい職場環境をつくる

■響働スローガン2001

変わろう、変えよう
今から、此処から、自分から
Speed, Training, Communication

成長 **(株)** は此処にあり
会社の**内**は
宝の**山**だ
力を合わせて**精**一杯
加工に励み、改善し
みんなで掴もう幸せを

■TPMの基本方針

全社員が一丸となって、設備に強い集団となる

1. 設備で品質をつくりこむ
2. 設備総合効率を最高にする
3. 設備に強い人材を育成する
4. プラス思考を習慣化し活気ある職場にする

■TPM活動スローガン

物づくりの原点に立ち返りSTAR運動を展開し
“響働”しあってプラス思考で目的を達成する

■改善活動スローガン

ものづくりの原点にたちかえり“知恵と情熱”で
STAR運動（みんな星のように輝こう）
を展開しよう

会社の中は**宝**の宝庫

みんなで掘って“幸せ”になろう

・STAR運動とは

S: See	よく観察しよう
T: Think	よく考えよう
A: Act	すぐに行動しよう
R: Refresh	お互いに元気づけよう

・宝とは

ひとりひとりの成長であり、ムダの排除である
より楽に
よりよい物を
より安く
より早く
つくる努力が宝となる



全社員による研修会



社内技術陣による研修会



個別改善事例を発表する社員



今後の活動の方針を探る幹部会



社外の技術者を招いて、改善事例の発表会を開く



オペレーターの指導育成



回転シリンダー分解修理O.J.Tによりスキルアップを図る

■ユニフォーム

平成8年に社服委員会をつくり、社員の意見を取り入れて新しいユニフォームが決定しました。

洗濯がしやすいこと、着てみて楽しいこと、動きやすいこと、丈夫なこと。この条件を満たす素材として、デニム生地が使われることになりました。既製品との差別化を図るため、腕の部分に四つ葉の刺繍を施しました。

四つ葉のマークには、健全な心身、豊かな物資、家庭円満、働きがいのある職場。この4つが合わさって、社員全員が幸せになってほしいとの願いが込められています。



4つが合わさって、しあわせ

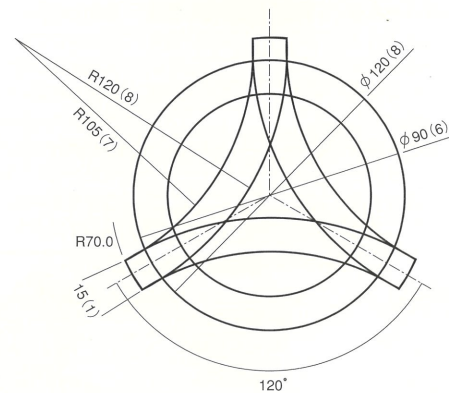


■ロゴ・マーク

現在のロゴマークが使われるようになったのは、商号を株式会社に変更した昭和55年からです。

人が支え合うように大の字になって、手を取りあって輪(和)になる姿が、社訓である「人の和」を表しています。また、そこで働く人が大きく育つという願いも込められています。考案当初のカラーは黒でしたが、現在の場所に新築移転してから緑になりました。

明るく働きやすい職場づくりに欠かせない「人の和」を、これからも築いていきたい。そんな思いから生まれたロゴマークです。



 株式会社 内山精工

■基本理念

目的なくして計画なし
計画なくして努力なし
努力なくして実行なし
実行なくして成果なし
成果なくして評価なし
評価なくして分配なし
分配なくして満足なし

■会社概要

創 業	昭和6年4月
設 立	昭和55年4月
資 本 金	1,000万円
代 表 者	代表取締役 内山康弘
役 員	常務取締役 内山典子
	取 締 役 塚本 功
従 業 員	39名(正社員/男子24名、女子9名) (パート/男子3名、女子3名)
	男子平均年齢 40.2歳 女子平均年齢 48.4歳
敷地面積	7776.86m ²
建物面積	3016.07m ²
売 上 高	3億6,500万円('99年度実績)
事業内容	省人、省力化された近代設備と高度な技術により軸受部品・自動車部品・油圧機器部品の機械加工
主要取引先	株式会社不二越 田中精密工業株式会社 合資会社日下歯車製作所 その他
取引先銀行	商工中金富山支店 北陸銀行上市支店 富山第一銀行上市支店

主要設備	汎用NC旋盤	15台
	Gローダ付CNC旋盤 (うちM機能付1台)	2台
	2スピンドルCNC旋盤	
	ガントリーローダー付	16台
	フィンガーローダー付	2台
	バーフィダー付	2台
	マシニングセンター	9台
	立型NCフライス	1台
	穴あけ専用機	1台
	油圧式刻印機	3台
	各種工作機械 (旋盤、フライス、平面研磨機 他)	12台



編集後記

21世紀元年に創業70周年の節目を迎えることができたことを、あらためて誇りに思います。過去の歴史を振り返り、先代社長の生きざまが、現在の内山精工の社風と文化の基盤を成していることを再認識する良い機会となりました。

限られた資料をもとに、成長の過程を5つの節目で区切り、分かりやすくまとめることができたことをうれしく思います。VISION21での、社員みんなの素晴らしい笑顔がとても印象的です。

これからも、全社員一丸となって、明るく楽しく元気よくをモットーに、変化することを恐れずに積極的に挑戦していく決意です。

 株式会社 内山精工

〒930-0412 富山県中新川郡上市町広野3132

TEL 076-472-0192 FAX 076-472-0164